

マスク着用義務化の行政命令に関する詳細指針

行政命令の概要

- ◆ 処分対象者:ソウル特別市全地域の居住者および訪問者
- ◆ 処分内容:室内および屋外でマスク着用 ※ ただし、日常的なプライバシー空間や飲食時などやむを得ない場合は除く
- ◆ 処分期間:2020年8月24日(月)から別途解除されるまで

□ 義務着用の必要性

○ 自分を守り、隣人を守る最も効果的な予防手段

－ マスク着用時、感染リスクが85%減少(2020、国際学術誌 THE LANCET)

※ マスク未着用時の感染可能性は5倍以上

マスク着用による追加感染予防の例(疾病管理本部)

- ・ 感染者と乗用車で1時間以上一緒に移動した3名:全員陰性
- ・ 感染者が7日間入院し、接触した病院の医療従事者17名:全員陰性
- ・ 感染者が28名発生したカフェの従業員4名:全員陰性

□ 義務着用対象者の範囲:ソウル特別市全地域の居住者および訪問者

○ ソウル特別市の居住者とは、ソウル特別市の行政区域内に居所が

あり、実際に居住している人を指す

ソウル特別市の居住者が他の行政区域を訪問する場合

- ・ 義務着用の行政命令が効力を及ぼす空間的範囲はソウル特別市の行政区域内であるため、
ソウル特別市の居住者が他の行政区域を訪問する場合は、義務着用の対象ではない

- ソウル特別市の訪問者とは、ソウル特別市以外の行政区域内に居所があり、実際に居住している者が自宅出勤、営業、旅行など目的を問わず、現在ソウル特別市の行政区域内にいる人を指す

□ **義務着用の空間的範囲**:ソウル特別市の行政区域に所在する室

内および屋外

- (室内基準) バス、地下鉄、船舶、航空機、その他の車両などの運送手段、建築物および四方が区画され外部と分かれているすべての構造物内でマスクを着用する

- (屋外基準) 以下の各号に該当する場合はマスクを着用する

- － 集合、集まり、行事(公演)、集会など大人数が集まって他人と接触する場合

集合・集まり・行事 / 集会の基準

- ・ (集合・集まり・行事) 同じ目的を持った人々が事前に合意・約束・告知された日程に従って同じ場所に集まって行う集合・集まり・行事
- ・ (集会) 「集会及びデモに関する法律」に従い、申告手続きを経た集合・集まりな

ど

- 生計・住居を一にする人(家族)以外の人と2mの距離を置くことが難しく、接触する危険がある場合

□ 義務着用に対する例外: 日常的なプライバシー空間や飲食時などやむを得ない場合

① 日常的なプライバシー空間にいる時

- 実際の居住空間(家)にいる時
- 分割した空間に一人である場合や、生計・住居を一にする人(家族)と一緒にいる場合

※ 生計・住居を一にする人以外の方が、分割した空間を訪問する場合はマスクを着用する

車両(乗用車)利用時のマスク着用基準

- ・ 車両(乗用車)内に一人である場合や、生計・住居を一にする人々と一緒にいる場合: マスク未着用可能
- ・ 車両(乗用車)内に生計・住居を一にしない人と一緒にいる場合: マスクを着用する

② 飲食時 ※ ただし、飲食の前・後および会話をする際はマスクを着用する

- 食事および間食として飲食を行う場合
- 酒、タバコ、茶、コーヒーなど嗜好品を摂取する場合

**③ その他やむを得ない場合 ※ ②～⑤号の場合、該当の活動の前・後に
マスクを着用する**

① マスク着用時に呼吸困難および健康悪化などの恐れがある場合

- ・ 24か月未満の乳児
- ・ 重症患者
- ・ 呼吸器系の基礎疾患を持つ患者で、マスク着用時に呼吸が苦しくなる場合

② 保健・衛生活動のためにマスクを外さなければならない場合

- ・ マスクを外さないと検診・診療・投薬などの医療行為が行えない場合
- ・ 入浴、シャワー、洗面、歯みがきなど個人衛生活動を行う場合

③ スムーズな公務遂行のために必要な場合

- ・ 政府・地方自治体・公共機関で外交、国防、捜査、救助、救護、広報などの公務遂行時、
マスクを着用した状態では当初の公的目的の達成が著しく難しい場合
- ・ 政府・地方自治体・公共機関で身分確認を要求し、これに応えなければならない
場合
- ・ 政府・地方自治体・公共機関で要求する写真(証明写真・パスポート写真など)提出のために撮影を行う場合
- ・ 政府・地方自治体の非対面教育の指針に基づき、教師や講師などがオンライン講義を撮影する場合

④ マスクを外さないと本業または生計維持ができない場合

- ・ 歌手・俳優・声優・タレント・モデル・芸術家(職業)などが視聴覚映像の撮影の対象となる場合や、公演などに出演する場合
- ・ 運動選手(職業)が試合に出場する場合
- ・ 管楽器の演奏者(職業)がステージで演奏する場合

⑤ その他、場所の特性上マスクの着用が難しい場合

- ・ 水泳、水遊びなどのために水中で活動する場合など

※ 義務着用の例外事項に該当しても、発熱または呼吸器症状などがある場合は必ずマスクを着用する

□ マスク着用の認定基準

○ マスクの種類

- 保健用、手術用、飛沫遮断用、布マスクすべて可能
- ただし、食品医薬品安全処が許可した「医薬部外品」マスクの着用を強く勧告

食品医薬品安全処のマスク着用基準

- ・ KF94以上のマスク:新型コロナウイルス感染症が疑われる患者をケアする場合
- ・ KF80以上のマスク:
 - － 咳、喉の痛みなど呼吸器症状がある場合
 - － 健康弱者、基礎疾患者が他の人と接触する場合
- * 健康弱者:高齢者、子ども、妊婦、慢性疾患者
- ** 基礎疾患保有者:慢性肺疾患、糖尿、慢性腎疾患、慢性肝疾患、慢性心血管疾患、血液がん、抗がん治療中のがん患者、免疫抑制剤を服用中の患者
- ・ 飛沫遮断用・手術用マスク:
 - － 長時間着用しなければならない環境 / 暑い夏季 / 呼吸しにくい場合

○ 着用方法

- － 顔の大きさに合う適切なサイズのマスクを選び、鼻と口が見えない用に着用する

※ 鼻と口が隠れていない場合は未着用とみなす